

ウルトラマンの謎

48期生

I テーマ設定の理由

今、この冊子を読んでいる保護者の方々、この「ウルトラマン」という名を聞いて、少年、少女の頃を思い出して、『あーだった、こーだった』と思い出にひたっていらっしゃると思います。僕には4才の弟がいます。その弟が現在の『ウルトラ・ブーム』に巻き込まれて、色々コレクションを持ち、ウルトラおたくの域に達しています。(まだロクに怪獣名書けません)その弟のせいで僕も『ウルトラ』を知りそして興味がわきました。テーマ設定に悩みに悩んでいた僕はとうとうテーマを「ウルトラ」にしたのです。

II 研究方法

- (1) 文献調査 「裏のウルトラ」について色々な本で調べる。
- (2) 自分なりの推測 資料から考えられる事を書く。

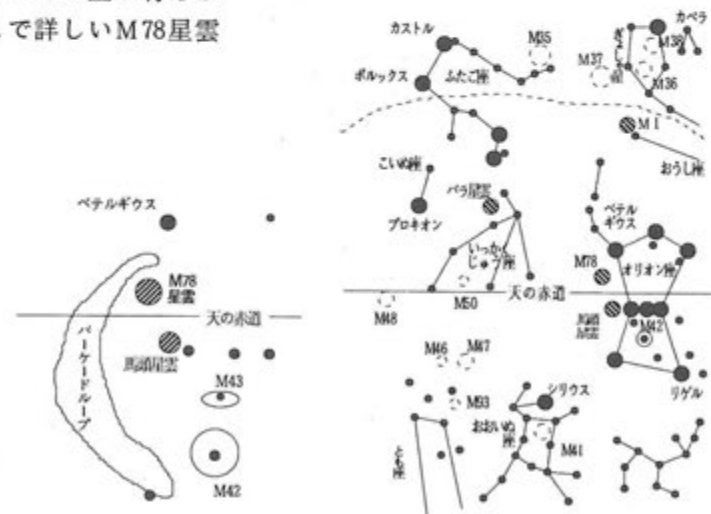
III 研究内容

1. ウルトラの星・M78星雲は有った!?

ウルトラ・シリーズでは、M78星雲の中の1つをウルトラの国(星)と設定して物語を進めているのだが、本当にM78星雲は有ったのでしょうか?

実は有ったんです。M78星雲が……冬の空、オリオン座の近くに。ウソじゃないですよ!! (M78星雲にウルトラの星が有るかどうかは別にして)ここで詳しいM78星雲の説明(?)をします。

メシエ番号 78
NGC番号 2068
赤経 546.7
赤緯 +04
光度(等) —
視直径 8' × 6'
性状 散光星雲
星座 オリオン



▲図2 オリオン座

▲図1 冬の夜空(南方一部)

2. バルタン星人の権利について

バルタン星人は本当に悪いヤツなのだろうか。故郷の星を失い、新たな安住の地を求めて地球にやって来たのだが。(しかし、地球に来て話もせず町を破壊したのは良くない事である)

しかし、そんな事実もさることながら、ウルトラマンは南京大虐殺の1万倍以上の22億3,000万人(?)のバルタン星人大虐殺を行なったのだから。バルタン星人に権利は必ず存在する事は確か(知能を基準とすればの話。地球人よりバルタン星人のIQは上である。我々が下等怪獣の権利を認めないのなら、バルタン星人は我々の権利を認めず、我々が認めたのなら、バルタン星人も我々の権利を認めなければならない。)であるので、バルタン星人には裁判を起こせる(日本語がしゃべれて、義務を果たした時)のだ。ここでバルタンが勝てば、ウルトラマン=ハヤタは実刑となり、たぶん死刑になるであろう。もしそうになっていれば、ヒーローとしてただ1人の怪獣に裁判で負け、死刑になった事で有名になる……訳ないか。

3. 悲しき怪獣の話

怪獣達。宇宙からの侵略者、破壊だけを目的とするヤツもいますが、こんなに悲しい怪獣もいるのです。

…ジラースの悲劇…

モンスター博士と呼ばれる動物学者、中村博士がネス湖から北山湖まで、二億年ほど秘密で育てていた。ところがある日、釣り人が湖の魚をとろうと毒を流したため、苦しんだジラースが怒り出して外へ飛び出した。そこに待っていたのはウルトラマン!!

人のせいで勝手に住み家を変えさせられて、毒までもを流しこまれ、文句を訴えようと(ここでも先に手が出たのはよくない事ではあるが…)出て来たが、結局ウルトラマンが勝つという事である。



▲図3 ジラース(身長45m・体重2万t)

…ゴモラの悲劇…

太平洋のジョンソン島で生けどりにされた古代怪獣ゴモラ。そのまま大阪まで連れて来られた時、綱が切れ、大暴れ。とここで、何の為にゴモラがわざわざ大阪まで連れて来られたのか。どっかの国の誰かが考えたのか知らないけど、万国博覧会に出品(?)するんだそうですって。そりゃあまりにもひどすぎやあしないか!ゴモラは凶悪というイメージがあるが、決してゴモラは破壊をしに来たのではないのだ。綱が切れて大暴れし始めた時、そこに待っていたのは、またもウルトラマン!!ウルトラマンは街を破壊した事を罪とみなし、激しい闘いの末、ゴモラはウルトラマンにスペシウム光線で殺されてしまう。



▲図4 ゴモラ(身長40m・体重2万t)



▲図5 ジャミラ(身長50m・体重1万t)

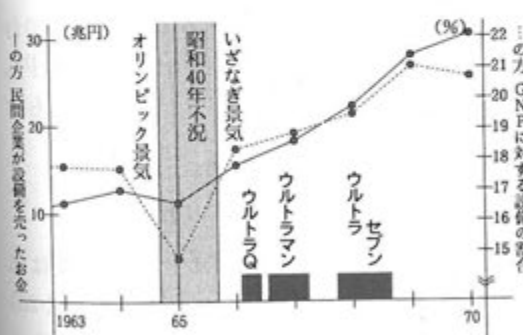
…ジャミラの悲劇…

宇宙飛行士ジャミラの乗った宇宙船が水の無い星に遭難した。その星の異常な気候状態によって体質変化し、怪物化した。

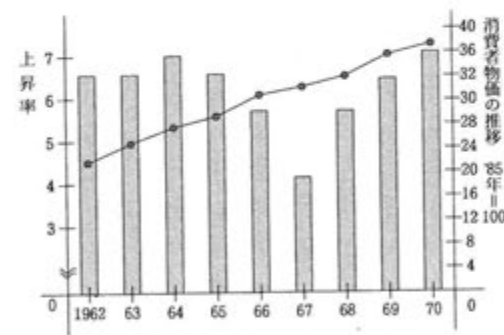
彼は自分を見捨てて、救助に来なかった地球人に復讐するため、地球に帰って来た。しかし、そこに待っていたのも、やっぱりウルトラマン!!。ウルトラマンは彼(?)の悲しみも分からずにウルトラ水流でジャミラを殺してしまう。

こうなると、ウルトラマンは必ず善、怪獣は必ず悪という訳ではないのではないだろうか。

4. その頃、日本の経済はどうだったのだろうか。



▲図6 設備投資の推移



▲図7 消費者物価の推移

この図2つを見ても分かるように、ウルトラQ、ウルトラマン、ウルトラセブンの放映されていた時期はいざなぎ景気の中!カラーテレビが普及しだして、カラーで『ウルトラ』シリーズが見られるようになったし、物価の値上がりは4%程、景気が良く、ボーナスもよく出たので主婦達が、新三種の神器(3Cとも呼ばれるカー、

クーラー、カラーテレビ)を欲しがり、それを買いはじめた。一番安いと思われるカラーテレビは東京五輪で普及率が急速に伸び、この時期で、少しずつ加速していったのではないかと僕は思います。当時は今の不景気とは違い、財布がホッカホカだったので少々高い物でも、無理して買っていたのではないのでしょうか。

5. もし、この世にウルトラマンが存在していたら?(ウルトラマンVS怪獣被害総額は)もし、この日本にウルトラマンが存在していたら、一体、どんな問題が有ったのだろうか。考えてみた。

- ① ウルトラマン、怪獣の重みによる地盤沈下
- ② 怪獣の破壊行動による破壊、炎上、停電
- ③ ジェットヒートルの外れ玉による市街の炎上
- ④ 必殺光線で作られた時爆発した事による炎上
- ⑤ ウルトラマン、怪獣が歩くことによる木、建造物の破壊

などがあげられる。これらの被害総額は一体いくらになるのであろうか。現在価値で計算してみた。

今回の被害算出では、オイルSOS(13話)を引用します。ベスターは京浜工業地帯をおそいました。映像内でのベスターによる被害状況は下のようになります。

- 被害状況 -	
1. タンクローリー	1台+a
2. タンカー	1隻
3. オイルタンカー(主に原油)	約40基
4. 付属設備	多数
5. 復旧までには約3年かかるという	

▲図8 ベスターによる被害状況

ほどのタンクローリーが待機しているので、タンクローリー自体の被害は約3億円。さらに、一台から数台しかタンクローリーを持っていない小企業の休業補償なども含めると約10億円という結果が得られた。

☆タンカー

ベスターがほぼ一撃のもとに沈めたタンカーは20万トン積載のものと判明。昔は25億円ほどだったが、現在はダブルバンク構造のタンカーがふえており、それで軽く200億円を突破する。しかも、再建造までの「機会損失」は膨大。タンカー積み原油は30億円と判明。

☆オイルタンク

画面に登場したコンビナートとそのモデルを比較してみると、10万klのタンクが主体。中には8万klや小型の2~3万klのタンクもあるが、16万klのタンクは見受けら

れない。

10万klタンクでは上物で15億円、最新鋭で20億円ほどするという。(当時は2億円ほど)ストーリーでは35個(映像の爆発音から推移)のタンクが爆発しているが、生き残ったタンクもあるようで、タンクは60個あったと思われる。なので、タンクだけの被害は約780億円ほど(2~3万klの小型タンクも含む)の被害と判明。

次いでタンクの中の原油であるが、オイルショックという事もあったので、操業料を65%ほどに見積り、1バレル(160kl)=210\$=21,000円(1\$=100円レートで換算する)とすると、375万kl~398万klの原油は525億円ほどの価値になる。

また、タンクを建設するには、基礎工事にも相当かかる。ストーリーに登場する埋め立て地の場合は、通常より桁はずれに巨額である。

「モデルのような場所の場合は全壊としたら安全面からも再びゼロからやり直さなければならないと思われ、その時には500億、1,000億円、あるいは土壌から作り直すとなれば一兆円などという規模になるかも知れない。それにコンビナートの後始末だけでもモノがモノだけに撤去には100億円くらいでは済まされない」という事になるようだ。

☆付属設備

設備のモデル主体とし、100億単位で算出すると1,700億円の規模にある。

ここで、個別計算で算出した被害額をモデル地区の完全破壊と設定した時、現在価値として約6,800億円の損害。

しかも、首都圏の発電量が10%以上不足し、備蓄基地から届くのに4日以上かかり4日間は空白になる。経済が被る被害は約3兆円。復旧まで約3年にかかるという事らしい。

6. ウルトラマンに倒された怪獣の死体処理は一体誰が行うべきか。

ウルトラマンあるいは科特隊に倒された怪獣の死体は、その後、どのような形で処理されているのであろうか。行政法の立場から検証してみたい。

我々の最も身近な所で「公共の福祉」を実現する行政主体として、都道府県、そして市町村といった普通地方公共団体が存在する(地方自治法一条の二第二項)。これらが行うべき行政事務として、「地方公共の秩序を維持保持すること」はもとより、じんかい処理場や汚物処理場などの環境保全に関する施設の処理、管理、さらには清掃、消毒、美化、公害の防止などによる保健衛生に関する事項が法定されている。(法二条第三項の各号)

ところで、これら地方自治体のうち、都道府県が行う衛生関係業務は「産業廃棄物」の処理に限定されているため(法二条第六項一号)一般廃棄物の処理は市町村の事務となる。従って、怪獣は産業廃棄物とは考えにくいので、地方自治法の事務分配で言えば、市町村が処理をする訳だ。しかし国は処理の一部の費用を補助しなければならない。

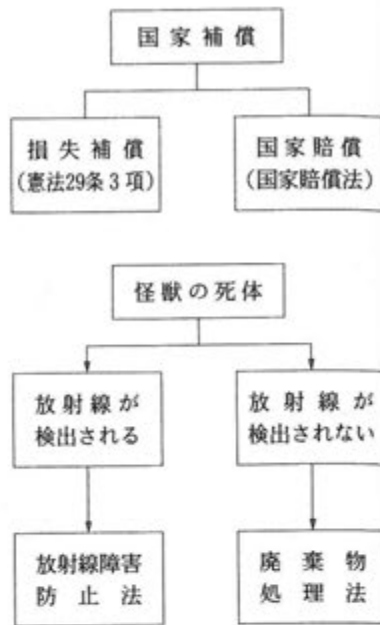
しかし、怪獣から放射線が検出されたら話は別だ。この場合は怪獣の死体は科学技

術庁長官の認めたもののみが処理することになる。

さっきも書いたが、放射線が検出された怪獣の死体処理は、科学技術庁長官の認めた業者以外できない。その業者へ市町村はお金を払う必要は有るのだろうか……。現行法では、この汚染物質を生み出した事業主体がその廃業に関する経費を負うことになる。すなわち科特隊ないしこれが帰属する国が負担しなければならない。

放射線が検出されない場合においても、一般市民への被害を最小限に食い止めるために人口が過密する所を避け、過疎地に怪獣との対決の場がとられるのがもっとも合理的である。しかし、このため死体処理は、過疎化されている弱小自治体への負担となり、その負担は他の自治体には見られない「特別の犠牲」と言う事も可能である。加えて、地球規模でなされる怪獣からの防衛事業の後始末を一地方自治体に負担させるのも不合理である。

僕が思うに、最高の技術を有する科特隊自ら死体処理に当たるべきだと思う。



▲図9 国家補償と怪獣の死体処理

IV 結 論

ウルトラマンは決して善ではない。悪でも有り、善でもある。多くの人が、善だけのウルトラに魅了されていったのは言うまでもない。第二のウルトラブームでは、悪のウルトラも見てほしいと思う。最後に、Ⅲの3、悲しき怪獣の話は、人種差別の問題にかかわっていると思った。なぜなら、何をしても白人は偉い。黒人は悪いという偏見が残っているのだから。たぶん、脚本を書いた人達は、怪獣は絶対悪い、黒人は絶対悪いという考えを打ち消してほしいと、この話を作ったのだろう。だから、心からウルトラの火を消さないでほしいと願う。世界一素晴らしいヒーロー物、ウルトラシリーズを残す為にも。

。参考文献

- K-76 (1992) ウルトラマン新研究 朝日ソノラマ
- サーフスライダー21 (1991) ウルトラマン研究序説 中経出版
- 神田 文人 (1986) 昭和史年表 日本のあゆみ 小学館
- 日本経済研究センター (1992) 日本経済の基礎知識 日本経済新聞社
- 藤井 旭 (1989) 星雲、星雲ガイド 誠文堂
- 実相寺 昭雄 (1988) ウルトラマンのできるまで 筑摩書房
- 実相寺 昭雄 (1990) ウルトラマンに夢見た男たち 筑摩書房
- 酒井 征勇他 (1989) ウルトラマン決戦大百科 ケイブソンシャ
- 安井 ひさし他 (1978) ウルトラ怪獣大百科 雪書房